

自然教育園の 4月に見ごろの植物



タマノカンアオイ

武



ジロボウエンゴサク

武 水



- 武 武蔵野植物園 付近
- 水 水生植物園 付近
- 路 路傍植物園 付近
- 鳥 水鳥の沼 付近



サクラソウ

武 水



ヒトリシズカ

武 路



ニリンソウ

路



イカリソウ

武 路



エビネ

武 路



イチリンソウ

路



ヤマブキソウ

武 路



ミツガシワ

水



ムサシアブミ

路



ムサシアブミの花



ノウルシ

水



ツボスミレ

水 路



ヤブデマリ

鳥

いきもの解説

タマノカンアオイ

＜3月下旬～5月上旬＞

東京都の多摩丘陵で発見されたことから、この名前がつけました。葉の付け根に、紫色の口を大きくあけたような形の特徴的な花が見られます。



武

サクラソウ

＜4月上旬～4月中旬＞

花の形を桜に見立てて「桜草」。江戸時代から盛んに栽培され、多くの園芸品種が今に伝えられています。明治時代に発行された「桜草銘鑑」には331品種が記載されています。



武 水

イカリソウ

＜3月下旬～4月中旬＞

花の形を船の碇（いかり）に見立てたことが名前の由来。乾燥させたものは、漢方薬としても利用されます。



武 路

ヤマブキソウ

＜4月上旬～5月上旬＞

ヤマブキ（バラ科の落葉低木）の黄色と同じ花色であることが名前の由来。「クヤマブキ」の別名もあります。



武 路

ノウルシ

＜3月下旬～4月中旬＞

茎から出る乳液がウルシのように皮膚にかぶれを起こすことが名前の由来。湿地に生育する植物で、乾燥に弱く、湿原や河川敷などが減少したことによりあまり見られなくなりました。有毒植物で、誤って食べると胃腸炎を起こすこともあります。



水

ミツガシワ

＜4月上旬～4月下旬＞

3枚の小葉がカシの葉に似ているため「三櫛（みつがしわ）」。種子の化石が、約200万年くらい前の地層からも発見されている古い時代の植物です。



水

ツボスミレ

＜4月上旬～5月上旬＞

名前のツボ（坪）は庭の古語で、庭に生えるスミレという意味。少し湿った場所であれば、普通に見られるスミレの仲間です。



水 路

ツマキチョウ

年1回、春だけに見られる白色のチョウ。めったに止まらず、止まってもすぐに飛んでいってしまいます。オスは前翅の先端が黄色（ツマキの由来）が特徴です。



ジロボウエンゴサク

＜3月下旬～4月中旬＞

漢字では、次郎坊延胡索（じろぼうえんごさく）と書きます。三重県の伊勢地方にはスミレを太郎坊、本種を次郎坊とよび、それぞれの種の花どうしを、距（きょ：花びらなどの付け根の突起部分）を絡ませて引き合う遊びがあり、これが「ジロボウ」の由来とされています。「エンゴサク」は中国名（漢名）です。



武 水

ヒトリズカ

＜3月中旬～4月上旬＞

ブラシ状の白い花がちょこんとついています。清楚な花を静御前にたとえ、この名前がつけました。



武 路

エビネ

＜4月中旬～5月上旬＞

地下茎の形がエビに似ていることから、海老根（えびね）の名前がつけました。落葉樹林などに生育し、日本の野生ランの中では、普通にみられる種のひとつでしたが、美しい花の魅力によって、大量に盗掘され、個体数が激減しています。



武 路

ニリンソウ

＜3月中旬～4月中旬＞

2輪の花をつけることが名前の由来ですが、1輪の場合も、3輪、4輪の場合もあります。地下茎で増えるので、一面に広がって咲く様子がよく見られます。初夏には地上部は枯れます。



路

イチリンソウ

＜3月下旬～4月中旬＞

1輪の花をつけることが名前の由来。谷沿いのくぼ地となる湿った林内では、大群落を作ります。初夏に地上部は枯れます。

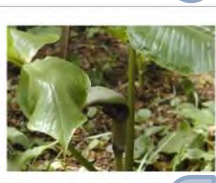


路

ムサシアブミ

＜3月下旬～4月下旬＞

花をつつむ仏炎苞が、武蔵国（現・東京都、埼玉県、神奈川県にまたがる）で作製したあぶみ（乗馬の際に足をかける道具）に似ていることから名前がつけました。湿った林の下でよく見られる植物です。

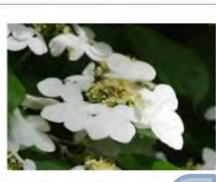


路

ヤブデマリ

＜4月下旬～5月上旬＞

やぶに生え、花序が球形であることから「藪手毬（やぶでまり）」の名前がつけました。中心の小さい花を取り囲むように、ガクアジサイのような装飾花をつけます。



鳥

全域で
みられます